

嶋満神社便り

令和四年一月号(第三十六号)

発行 嶋満神社奉賛会

皆様明けましておめでとございます。

まだまだ新型コロナウイルスの脅威は消えませんが、今年も會員の皆様にとつて幸せな年となりますよう、お祈り申し上げます。

さて昨年大晦日には、役員さん方の手によりきれいにお飾りをして頂き、無事新年を迎えることができました。

またたくさんのお供えを頂戴しまして、ありがとうございます。

早くたくさんの皆様

にお参りいただけますよう、新型コロナウイルスの終息を願うばかりです。



人間が神様を「格付け」？

さて当社は貞観年間に「正二位」という高い位を賜っていたことが古文書に書かれています。

え？それって、誰が授けてくれたん？
神様より偉い人っているん？

平安時代の法律書である「延喜式」には国家が一年の始まりの祈念祭に「幣帛」(捧げもの)をした神社の名が載っています。これが「式内社」です。

また同じく平安時代には神様にも人間と同じように位階を授ける「神階」の制度もできました。そうして神様に格付けがされるようになったのです。

ではその「おおもと」はどんなものだったのか？

わが国で最初の中央政権は「大和朝廷」であると学校で習いました。この大和朝廷、ヤマト王権が出来上がる前、今の天皇家のご先祖様が、それまで「連戸」を組んでいた有力な豪族たちを従え、組織していく過程で、言わば「利用」したのが「神社」、神様たちだったのです。

そもそも「氏神様」とは本誌第三十二号で記したように弥生時代、農耕が始まって出来上がった、地縁血縁を中心とした集団である地域社会の守り神、といったイメージでした。

やがて神として豪族の首長霊を祭る古墳ができるようになる、土地を守る神様と同じものと見られるようになります。天皇家の先祖である大王家もまたそのような祖霊神を祭る一族でした。その土地が纏向遺跡(マキムクイセキ)、祭祀場は三輪山を二神体とする大神神社(オオミワジンジャ)、祭神は大物主神(オオモノヌシノカミ)。

そして次第に大王家が他の豪族を従えていく過程で自分たちの首長霊を他の豪族たちのそのの上位に置きます。より有力な祖霊神を祭る一族が他の祖霊神を祭る一族を支配するという構図が出来上がって行きます。

さらに六世紀初め、継体天皇の時代に大王家は祖霊神をオオモノヌシからアマテラス・・・天照大神に代えます。そしてその祭祀場も伊勢の地へと移ります。

その後、他の豪族の祭る神様たちをアマテラスの親戚や家来筋の神としてその系譜を組織していきます。つまり神社の統制を介して豪族たちを組織していったのです。日本の国の統一は、言わば「神社」、神様を中心に、一部の戦いはあつたものの、諸外国と違ってきわめて「平和裏に」行われたと言えます。

そしてその考え方は後年、いろんな場面で受け継がれて、先述の延喜式、神階へと反映されていくのです。

さて当社は先述のいわゆる「式内社」ではありません。「正二位」という神階も初出は元龜三年(1572)です。

〔舞鶴市指定文化財 丹後国神名帳 津田家所蔵〕

しかし当社発行の縁起、平成二十三年版では傍証を重ね、推論ですが、その神階授与を平安時代の天曆十年(956)まで遡っています。多少の年代のズレはあっても大変古くからこの土地の人たちから崇敬を受けて、舞鶴の海を、浮島の民を見守り続けてきた「嶋満大神」の神格は決して変わることはないと思います。

鎌倉時代の武士のための法律、「御成敗式目」には「神は人の敬いを受けてこそ威光を増し、人は神の徳によつて運を開く」と書かれているそうです。私たちも地元嶋満大神さまを厚く敬い、人生の運を開いていきたいと思うものです。

参考文献・・・「神社に隠された大和朝廷統一の秘密」

武光 誠 著